

最高裁秘書第3237号

令和4年11月21日

林弘法律事務所

弁護士 山中 理 司 様

最高裁判所事務総長 堀 田 眞 哉

苦情の申出に係る諮問について（通知）

10月14日付けで最高裁判所が下記の司法行政文書を不開示としたことに対する苦情の申出について、本日、情報公開・個人情報保護審査委員会に諮問しましたので、通知します。

記

開示の申出があった司法行政文書の名称等

裁判所職員又はその家族の訃報に接した際、裁判所がその遺族に対して送っている説明文書（弔電、焼香、報道機関への通知に関する希望を聞いたり、訃報通知の範囲に関する希望を聞いたりする文書を含むが、これに限らない。）

（担当）秘書課（文書開示第二係） 電話03（4233）5240（直通）

最高裁秘書第3391号

令和4年11月28日

山 中 理 司 様

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高 橋 滋

諮問番号等について（通知）

司法行政文書の開示に係る苦情の申出について、諮問を下記のとおり受けたので、通知します。

また、同諮問について、最高裁判所から当委員会に提出された理由説明書の写しを別添のとおり送付します。

記

1 苦情の申出に係る司法行政文書の名称等

裁判所職員又はその家族の訃報に接した際、裁判所がその遺族に対して送っている説明文書（弔電、焼香、報道機関への通知に関する希望を聞いたり、訃報通知の範囲に関する希望を聞いたりする文書を含むが、これに限らない。）

2 苦情の申出がされた日

令和4年10月20日

3 諮問番号等

(1) 諮問番号

令和4年度（最情）諮問第18号

(2) 諮問日

令和4年11月21日

（担当）秘書課文書開示第一係 電話03（4233）5249（直通）

令和4年11月21日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長 堀 田 眞 哉

### 理由説明書

苦情申出人は、最高裁判所がした不開示の判断に対し、本件対象文書が本当に存在しないかどうか不明である旨主張しているが、下記のとおり当該判断は相当であるとする。

### 記

#### 1 開示申出の内容

裁判所職員又はその家族の訃報に接した際、裁判所がその遺族に対して送っている説明文書（弔電、焼香、報道機関への通知に関する希望を聞いたり、訃報通知の範囲に関する希望を聞いたりする文書を含むが、これに限らない。）

#### 2 原判断機関としての最高裁判所の判断内容

最高裁判所は、1の開示の申出に対し、10月14日付けで不開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

#### 3 最高裁判所の考え方及びその理由

- (1) 本件開示申出については、「裁判所職員又はその家族の訃報を受け、その近接した時期に、裁判所がその遺族に対して送っている説明文書（例えば、弔電、焼香、報道機関への通知に関する希望や訃報通知の範囲に関する希望を聴取するための文書）」と整理した上で、最高裁判所内を探索したが、当該文書は存在しなかった。
- (2) 職員又はその家族の訃報を受けた際、連絡を受けた職員等において、遺族から、訃報を職員に周知するかどうかの意向や、必要に応じて、葬儀に関する情

報、弔電、香料を受け取る意向の有無等を確認し、確認した事項を必要な範囲で職員に周知しているところ、遺族との連絡方法についての定めがなく、確認する事項が限られていることから、遺族との連絡は書面ではなく電話により行うことが一般的である。もっとも、遺族との連絡手段についての定めがないため、本件開示申出に係る文書が過去に作成された可能性はあるものの、実際に作成又は取得したのか否か及び作成又は取得後に廃棄されたのか否かが判然としない。

(3) よって、原判断は相当である。